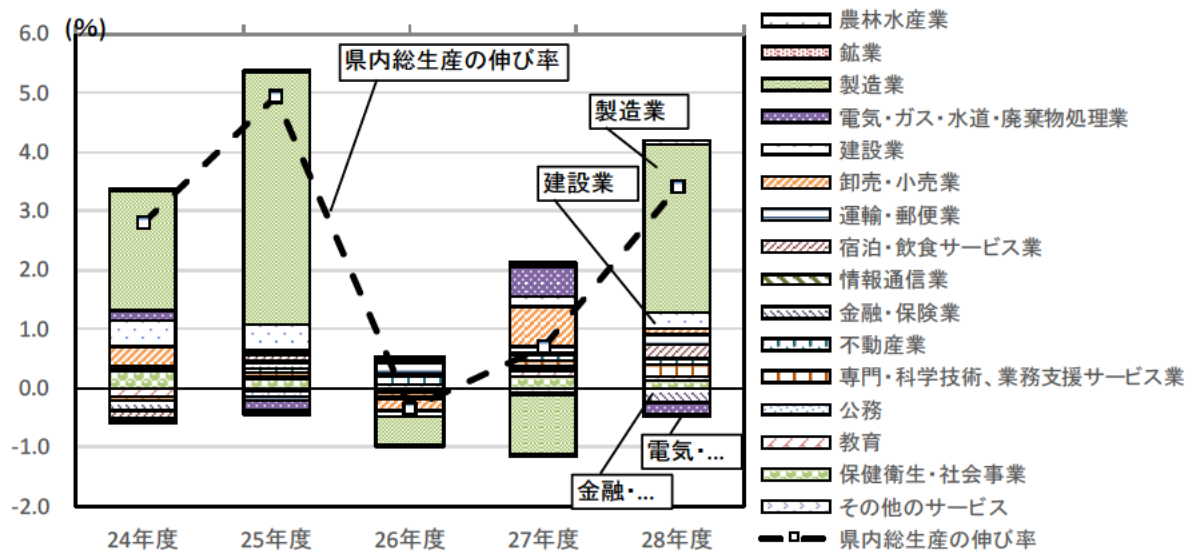


II グラフでみる三重の経済

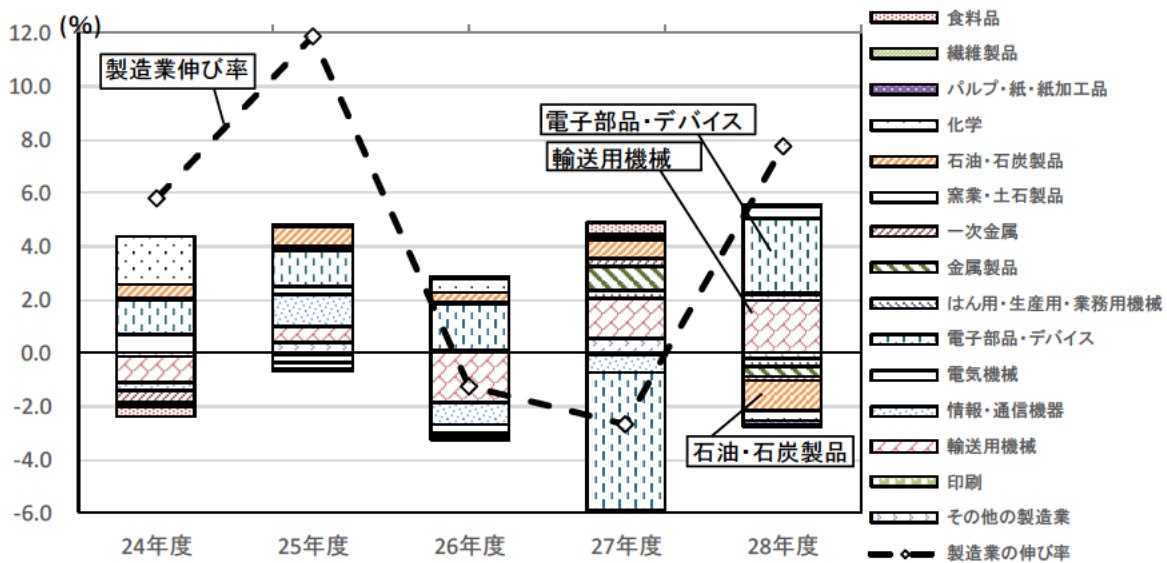
1 経済変動の要因分析

図II-1 県内総生産（生産側、名目）の伸びと経済活動別寄与度



平成28年度の名目経済成長率は3.4%で、製造業(寄与度+2.8%)や建設業(寄与度+0.3%)などがプラスに寄与しましたが、金融・保険業(寄与度-0.2%)、電気・ガス・水道・廃棄物処理業(寄与度-0.2%)などがマイナスに寄与しました。

図II-2 製造業の伸びと業種別寄与度

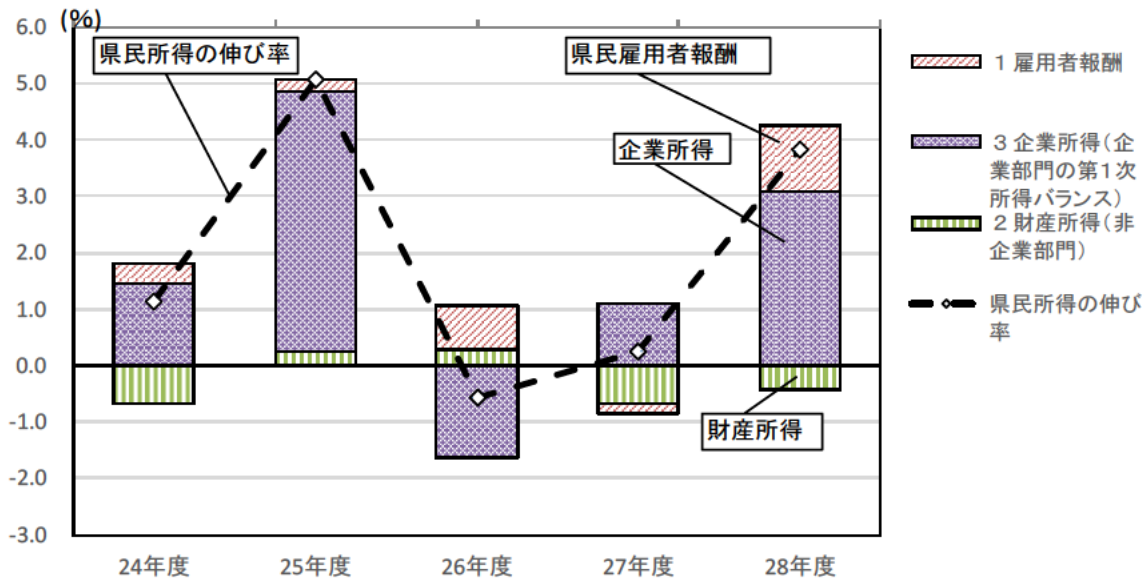


製造業の伸び率は7.8%で、電子部品・デバイス(寄与度+2.8%)、輸送用機械(寄与度+2.0%)などがプラスに寄与しましたが、石油・石炭製品(寄与度-1.1%)などがマイナスに寄与しました。

寄与度…全体の変動に対して、各構成項目の変動がどの程度影響を与えているかを示す指標で、各寄与度の合計は全体の伸び率と一致します。

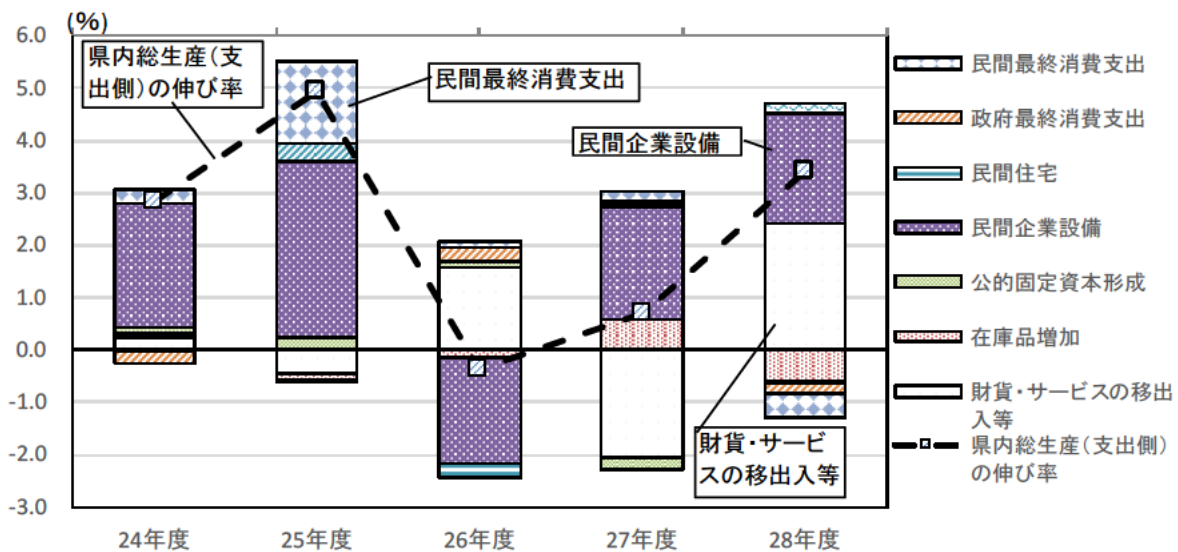
$$\text{寄与度} = \text{前期における構成比} \times \text{当期の前期に対する増減率}$$

図Ⅱ-3 県民所得（分配）の伸びと項目別寄与度



県民所得(分配)の伸び率は3.9%で、県民雇用者報酬(寄与度1.2%)、財産所得(寄与度-0.4%)、企業所得(寄与度3.1%)となりました。

図Ⅱ-4 県内総生産（支出側、名目）の伸びと項目別寄与度

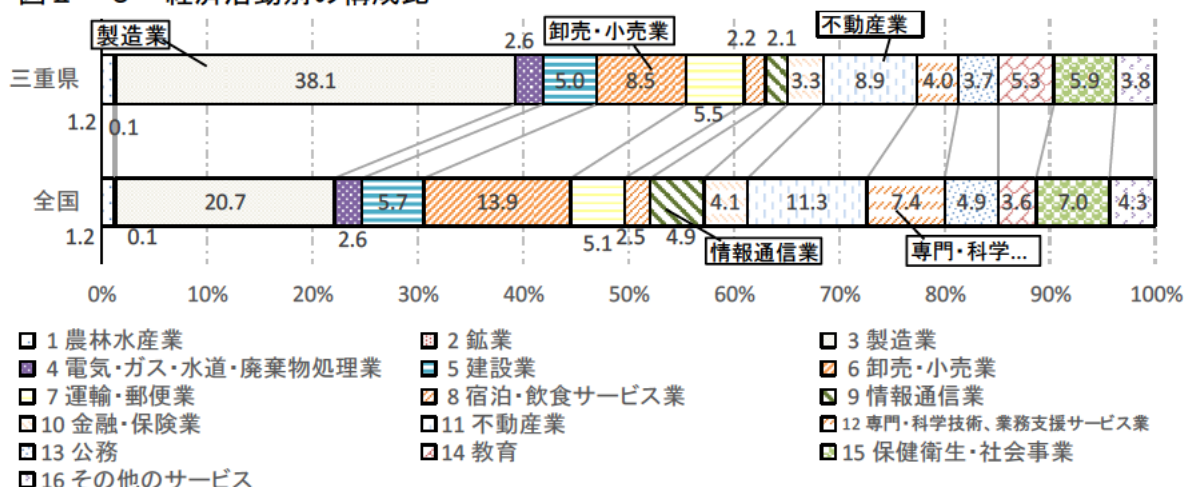


県内総生産(支出側、名目)の伸び率は3.4%で、民間企業設備(寄与度+2.1%)、財貨サービスの移出入等(寄与度+2.4%)がプラスに寄与しました。民間最終消費支出(寄与度-0.5%)は5年ぶりでマイナスに寄与しました。

2 三重県の産業構造

(1) 経済活動別の構成比

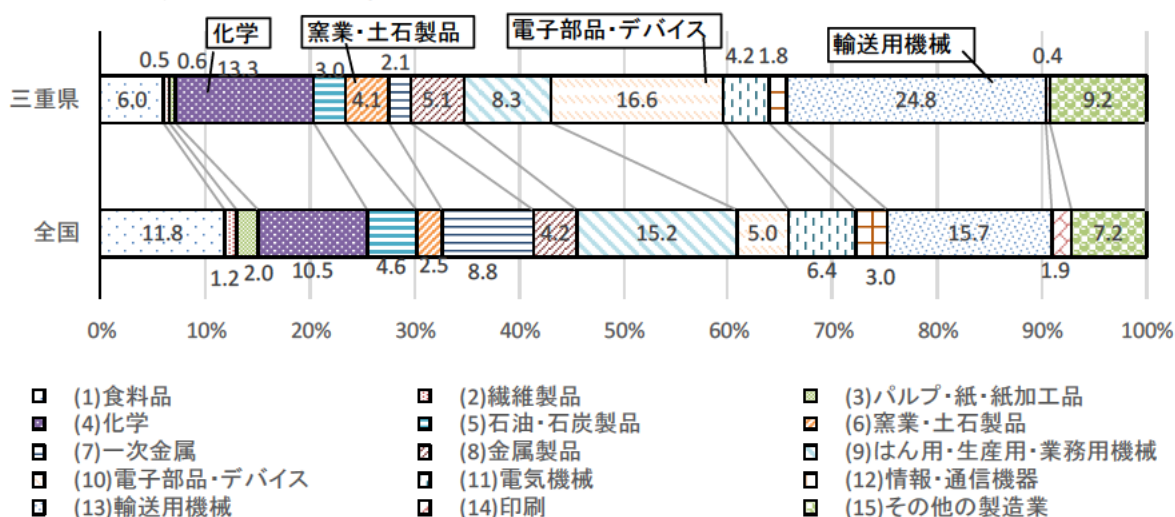
図Ⅱ-5 経済活動別の構成比



経済活動別に構成比をみると、「製造業」が38.1%で最も大きな割合となっています。次に「不動産業」が8.9%、「卸売・小売業」が8.5%となっています。全国と比べると、製造業は全国より高い割合となっていますが、「情報通信業」や「専門・科学技術、業務支援サービス業」は全国より低い割合となっています。

(2) 製造業の業種別構成比

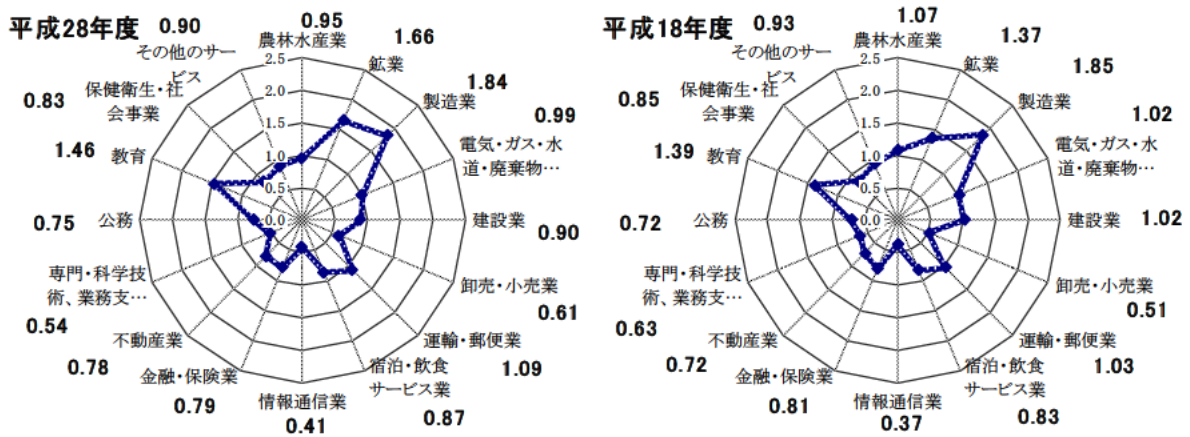
図Ⅱ-6 製造業の業種別構成比



製造業の構成比を業種別にみると、「輸送用機械」が24.8%で最も大きな割合となっています。次いで、「電子部品・デバイス」が16.6%、「化学」が13.3%などとなっています。全国と比べると、「電子部品・デバイス」や「窯業・土石製品」、「輸送用機械」で全国より高い割合となっています。

(3) 経済活動別の特化係数

図Ⅱ－7 経済活動別（平成28年度、平成18年度）

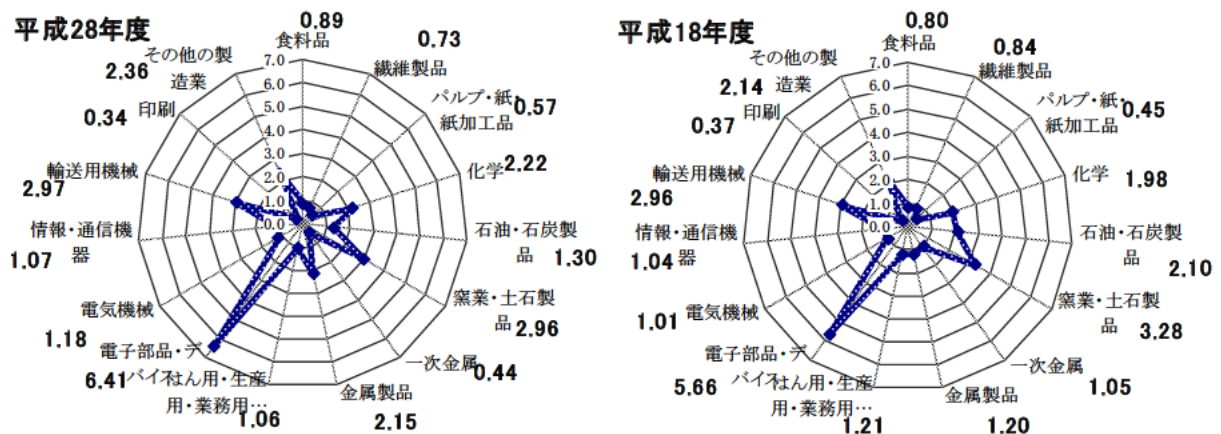


本県の産業構造の特徴を、全国を1とする特化係数で見ると、「製造業」が1.84で最も高く、「鉱業」、「教育」、「運輸・郵便業」で1を超えています。

また、平成18年度と比べると、「鉱業」や「卸売・小売業」などが上昇しましたが、「専門・科学技術、業務支援サービス業」、「建設業」などでは低下しました。

(4) 製造業の業種別特化係数

図Ⅱ－8 製造業の業種別（平成28年度、平成18年度）

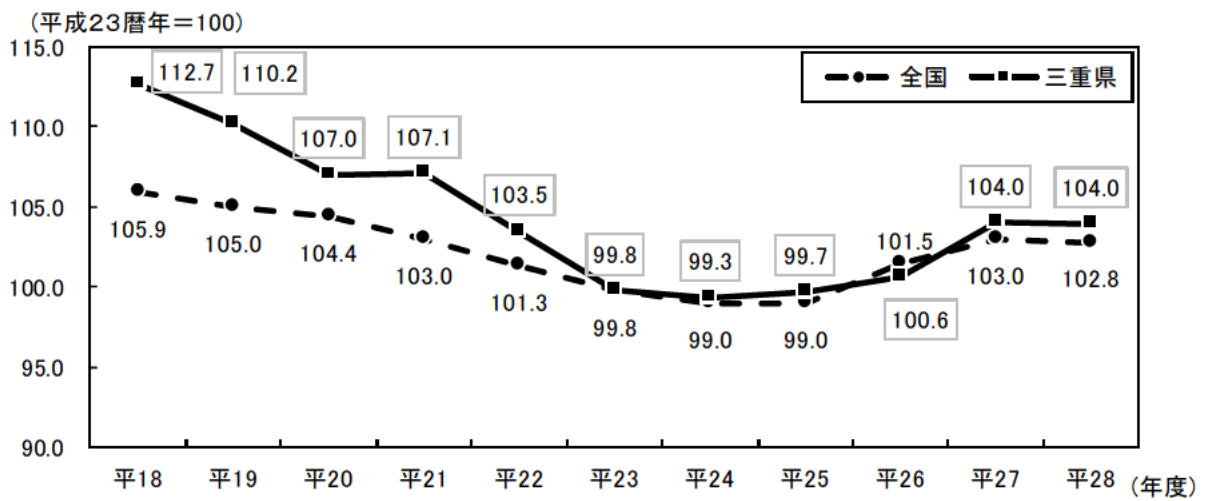


製造業の業種別に特化係数をみると、「電子部品・デバイス」が6.41と最も高く、「輸送用機械」や「窯業・土石製品」、「その他の製造業」、「化学」、「金属製品」で2を超えています。

また、平成18年度と比べると、「金属製品」や「パルプ・紙・紙加工品」が上昇しています。

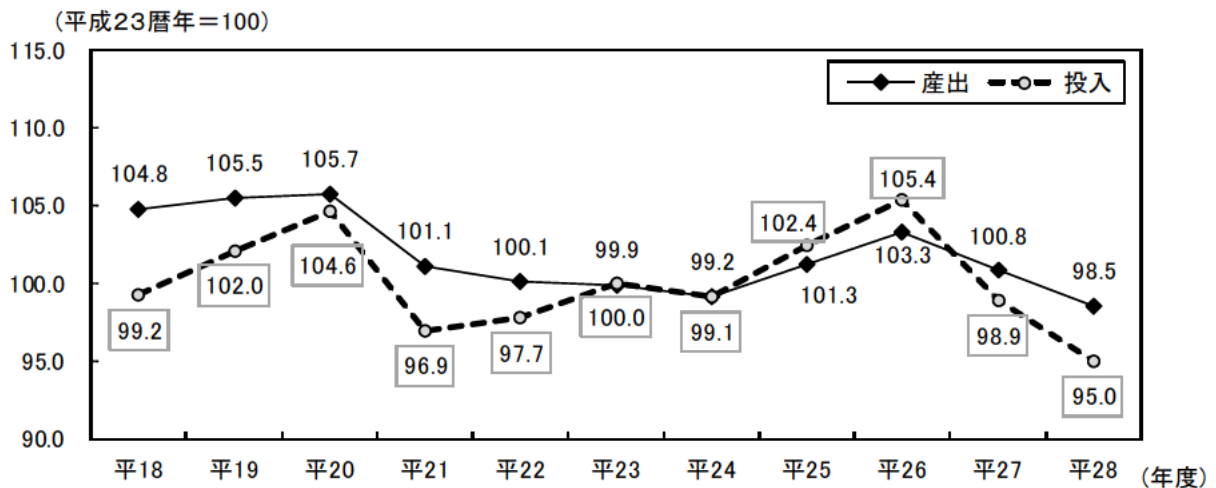
3 デフレーター（連鎖方式）

図Ⅱ－9 デフレーターの変遷



平成28年度のデフレーターは平成27年度と同じ104.0となりました。また、全国と比較すると、平成28年度で1.2ポイント上回っています。

図Ⅱ－10 デフレーター（投入、産出）の変遷

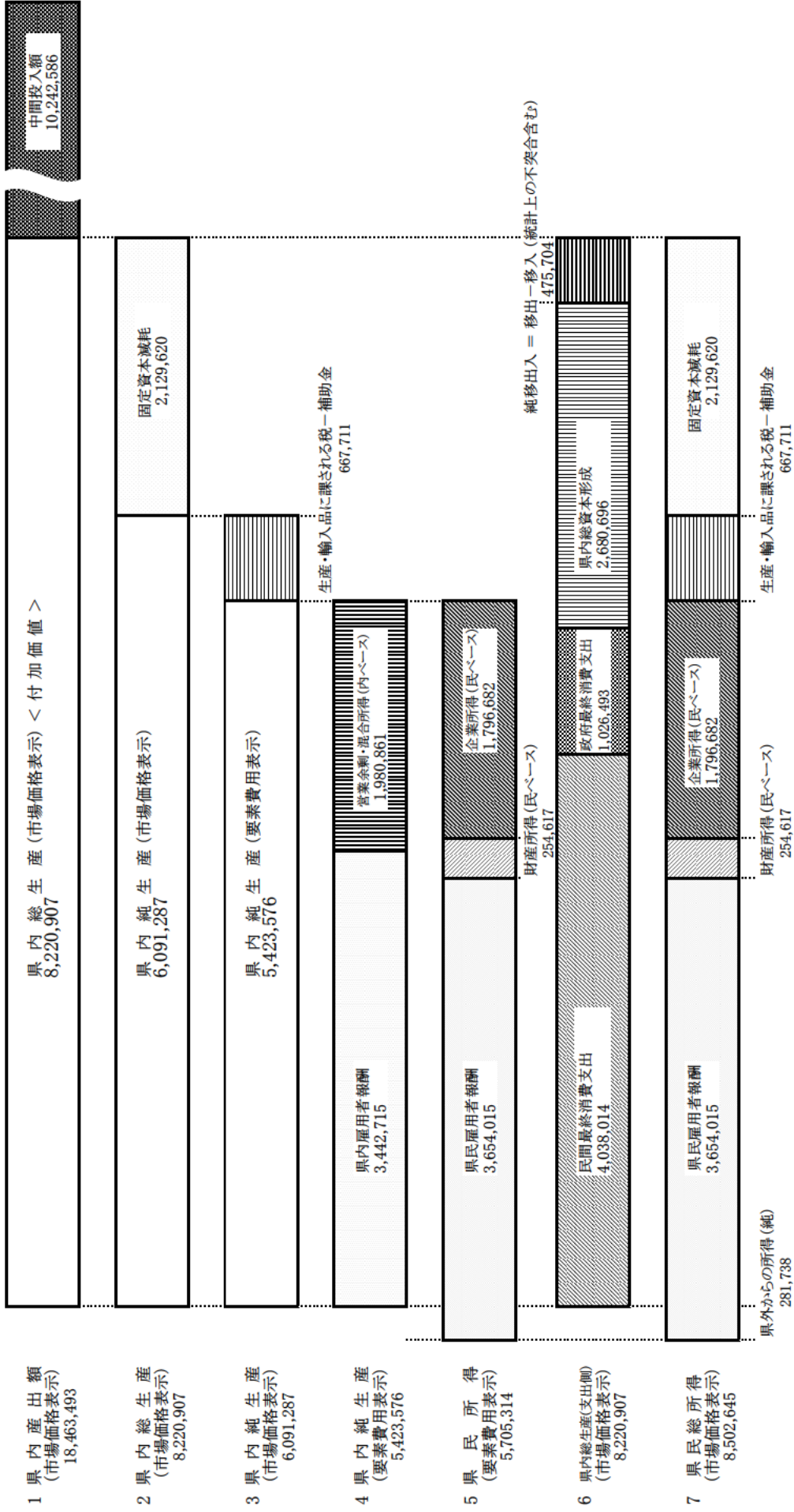


平成28年度の産出のデフレーターは2年連続の下降となりました。また、投入も同じく2年連続の下降となりました。

(参考 1)

平成28年度県民経済計算推計値の相互関連

(単位：百万円)



(参考2) 統合勘定

(単位:百万円)

